

富田林小学校

# SEだより

スクール・エンパワーメント

確かなことばの力を育む  
～どの子も主体的・対話的に学び合う  
国語科の授業づくりをめざして～

令和5年9月27日

## 校内研究授業

### 5年国語「たずねびと」

目標（学習指導要領より）

【知識・技能】

・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。

【思考・判断・表現】

・人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。

・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。

・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。

【学びに向かう力、人間性等】

・言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。



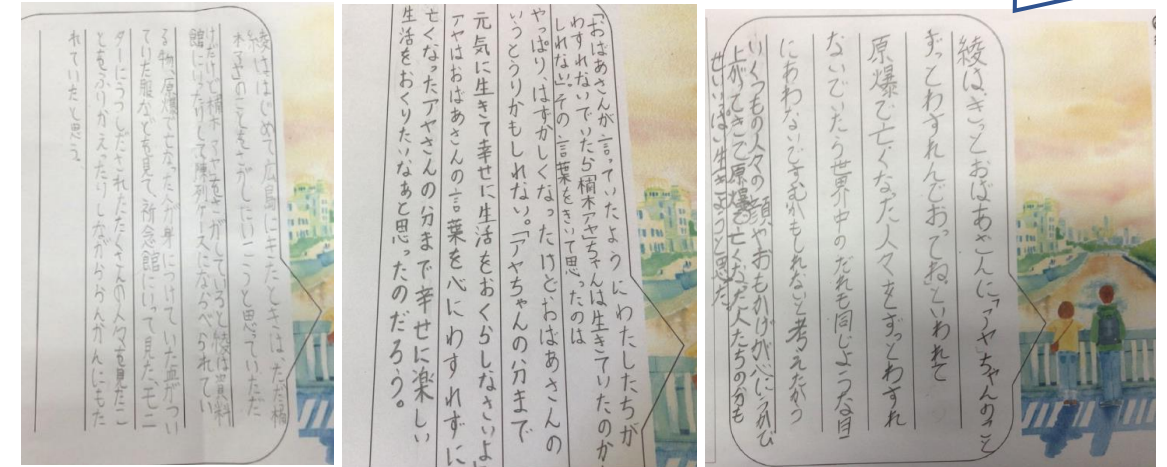
さすが5年生の教材です。この作品には、登場人物の心情を表現する文章が、たくさん出てきます。

本文に書かれていることから、主人公「綾」の気持ちを考えます。そして、そう考えたのは教科書の何ページ何行目に書かれたこの表現を見つけたからだ、という根拠を説明します。「綾がらんかんにもたれていたとき、考えていたことは…」この『めあて』に続けて自分の考えをプリントに書き始めました。



一斉に鉛筆が動き出しました。

どの子のプリントにも、自分の考えがしっかり書かれていました。



その後、それぞれの考えを、グループで交流しました。「同じだ。」「わかる、わかる。」「どこを読んでそう思ったの。」と、会話が始まりました。友達の意見を聞くときは、自分と同じところや違うところを考えながら聴くことが大切です。自分とは違う考えに触れることで、さらに学びが深まります。言葉を伝え合う、対話的な深い学びが見えました。



5年1組で研究授業を行いました。

「たずねびと」という物語文の学習をしました。

物語の学習では、登場人物、特に主人公の変化を捉えることが大切です。「どのように変化したのか」「何によって変化したのか」富田林小学校でも、低学年から学びを積み重ねています。

本時の目標は、「最後の場面を作品全体と関わらせながら読み深め、物語の全体像を捉えることができる」です。

ある日、主人公の楠木綾さんは、駅で見た「原爆犠養塔納骨名簿」のポスターの中に、自分と同じ「楠木アヤ」という名前を見つけました。それをきっかけに広島へ行った綾さんは、そこでたくさんの物や人に出会います…主人公「綾」の心情は、どのように変化したのでしょうか。

物語の世界に引き込む、素晴らしい音読から授業が始まりました。

